

日本生命保険相互会社 本店（本館ビル）

所在地 大阪市中央区
建物用途 事務所
竣工 1962年
所有者 日本生命保険相互会社本店
設計者 株式会社日建設計
施工者 株式会社大林組
三機工業株式会社
日本オーチス・エレベータ株式会社
維持管理者 星光ビル管理株式会社



〈審査評〉 日本生命保険相互会社は、明治22年の創業以来、大阪御堂筋にレンガ造の本社社屋を構えていたが、昭和初期の道路拡幅を契機に、御堂筋によりふさわしい美観と格調の高さを備えた建物として、長谷部竹腰建築設計事務所（日建設計の前身）に設計を依頼し、昭和13年に当本館ビルの北半分の部分（第一期）を竣工させた。その後、日建設計にその設計は引き継がれ、昭和37年に南半分の建設（第二期）を行うとともに、北半分の改修と設備の更新を加えることで、昭和38年に現在の一体化した形に完成された。

この建物の特徴は、昭和初期の第一期工事の段階でいち早く内部動線や設備機器を中央に集約したコアシステムを採用したその先見性にあり、その平面計画を継承することにより、第二期工事は戦後の近代的、合理的な建築の水準を確保し、かつ戦前の建物の特有な重量感のある建築として今日に至ったことである。とくに、北小島産花崗岩で統一されたその外観は、御堂筋の景観に欠かせない重厚なデザインとして市民に親しまれてきた。

これらの建築的な物資は、建設当初の設計思想を重視する計画の理念と、外壁の石貼り工事に代表されるような精度の高い施工技術、それに長年にわたる適切な管理、計画的な配慮によって支えられている。とくに、時代背景のまったく異なる状況下で二期にわたって行われた建設工事を、西玄関やエレベーターホールに見られるように、それとは意識できぬほど様式的に一体化させた独特な建築の手法は、昭和38年以来、建物の維持管理計画にも連綿と引き継がれ、内部の営業室の改築や事務室の改良工事、そして外壁の維持保全工事などに如実に生かされている。

こうした建築の原形を重視しながら、その存在を都市空間のなかでの貴重な社会的遺産として役立てるよう、建物の維持管理に尽くした関係者の努力は高く評価される。